

日本財団 ROAD プロジェクト 「東日本大震災・津波被害支援」助成事業完了報告

事業費総額	832,244 円
助成金額	1,000,000 円
払戻金額	167,756 円

事業の内容

- ①震災直後の混乱時に自宅生活を送ることが困難な方々に「居場所・宿泊サービス」を提供
[場所]ほっとあい
- ②津波の被災者(山元町)21名と、大河原在住のサロン利用者・ボランティア・スタッフとの交流会
[場所]蔵王さんさ亭
- ③土曜サロンでの交流会
(津波の被災者(山元町)大河原在住のサロン利用者・ボランティア・スタッフとの交流会)
[場所]ほっとあい
- ④クリスマスコンサートへ被災者招待
[場所]ほっとあい
- ⑤「心と体のワークショップ」IN山元と交流会の開催
(仮設住宅住民・劇団山の手事情社・山元町のNPOふれあい四季スタッフ・ほっとあいスタッフ)
[場所]山元町旧坂元中学校跡地仮設住宅集会所
- ⑥山元町被災住民とのお花見交流会
[場所]大河原ほっとあい夢ステーション
- ⑦りんごの貯金箱づくり
[場所]山元町旧坂元中学校跡地仮設住宅集会所 3回
山元町高瀬仮設住宅集会所 2回
山元町アップルハウス 1回
山元町太陽ニュータウン高橋さん宅 1回
山元町食改の岩淵さんほか 1回
山下小学校放課後児童クラブ 2回

事業効果

①の効果

- ☆震災直後自宅での生活を送ることが困難な高齢の方、延べ50人の方に家族や家の状況が落ち着くまでの間、安心して生活していただくことができた。無償でサービス提供をすることができた。
- ☆近所の高齢世帯の方に、夕食を届けることができた。
- ☆ボランティアとして自主的に宿泊して避難者を支援してくれたスタッフに、謝礼金を支払い、労をねぎらうことができた。

②の効果

- ☆身も心も疲弊し、狭い仮設住宅に閉じこもりがちな津波被災者の皆さんの生活の改善のきっかけづくりを行えた。
- ☆楽しいお話・交流・入浴・マッサージ・おいしい食事・声を出して歌う。「狭い仮設住宅ではできなかった。」「身も心も久しぶりでリラックスすることができた」「癒された」「楽しむことは罪悪ではなく、楽しんでいいんだと思えた」「ありがとう」の声を聞くことができた。

③の効果

- ☆山元町の被災者の方や、ほっとあいのサロン利用者、ボランティアと一緒に活動し、交流を深めた。
- ☆被災者の方に講師を務めていただくこともあった。この中の一人はこの活動で意欲を回復し、被災地の山元町で、いち早く数人の仲間とスポーツ推進員としての活動を再開し、平成24年8月に県の「スポーツ功労者表彰」を受けた。
- ☆蕎麦打ち、一緒にお料理、一緒に手づくり等ボランティアの講師の方も被災者の方も一緒に交流できた。

④の効果

- ☆地域のボランティアの方、ほっとあいの利用者、演奏者、被災者の方々と一緒に時を過ごした。被災地山元町のボランティアグループも参加した。
- ☆山元町にも、みんなが気軽に集うことのできる居場所を、ぜひ作りたいとの意思再確認ができた。
- ☆クリスマスのプレゼントは障害のある高齢の方々がこの日を目標に定め、心を込めて作った。全員参加で行った。
- ☆「フルートアンサンブルアンジェリカ」のメンバーの演奏にも心がよりこもっていた。

⑤の効果

- ☆山元町の仮設住民・山元町のNPO・ほっとあいのスタッフ・劇団山の手事情社とのコラボレーションで、心と体のワークショップを行い、人と人とのつながりの大切さ、楽しさ、難しさを実感体験した。

⑥の効果

- ☆大河原のお花見の期間中、駅前の空き店舗をお借りして「ほっとあい夢ステーション」を開催した。(10日間)
- ☆この夢ステーションで、地域のボランティアの方、ほっとあいのボランティア、被災地の方々と一緒に時を過ごした。被災地山元町のボランティアグループも参加した。様々な人がつながり、お互いに元気になることができた。

⑦の効果

- ☆山元町の名産物である「りんご」を活用した、りんごの貯金箱作りは、作業をしながらの交流の場から、自分の貯金箱・家族の貯金箱・ボランティアさんに感謝の貯金箱、そして販売できる手づくり製品を目指す方向に進んでいる。